

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 105

学校名・団体名	高松市立国分寺中学校
HPアドレス	http://www.edu-tens.net/tyuHP/kokubunjityuHP/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ループリックを活用した授業改善システムの実践
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は大規模中学校であり、「主体的・対話的な学び」を目指した授業改善を行い、全教員の授業力向上を図るには困難も多い。そこで、大規模校の特徴（教員の人数の多さや、幅広い年齢構成、多様な人材の存在）を生かした授業改善の方法を、PDCAサイクルでシステム化し、継続していく実践を行っている。授業改善のツールとしてループリック（判定基準）を作成することにより、改善の目的や方法、到達目標を明確化し、共有化を図るとともに、評価にも活用し、個々の教員が主体的に授業改善を進めることを目指す。</p>	

1 活動内容

(1) 【Plan】 授業評価ルーブリック (判定基準) の作成 (図1)

評価項目と判定基準の作成により、目指すべき授業の姿を教員間で明確にして共有する。基本的な教授技術が中心だった今までの評価項目に、「グループでの課題解決の場」「振り返りの場」等の項目を加えて、主体的・対話的な学びに対応するルーブリックをめざし改善を図った。

(2) 【Do】 授業改善の取組

① 全教員で取り組む相互授業観察 (9月～1月に実施)

教科の少人数グループで具体的なテーマを決め、互いに授業を参観し合った。授業改善に必要な教具とその活用方法についての具体的な取組が多く、効果的な学び合い学習のできるような環境整備につながった。ルーブリックを意識した授業を構想し、評価し合うことで、主体的・対話的な学びへの授業改善への意識が高まってきた。

【図1 授業評価ルーブリック】

探究的な授業方向上をめざすルーブリック(判定基準) 2019年度版

一人一人の生徒が授業に前向きに取り組み、わかったと実感できる授業をつくる

記入者 氏名 _____

月 日 () 第 校時 年 組 授業者 _____

本日の授業について、下記の項目の4, 3, 2, 1の点をつけてください。

No.	判定	評価項目	4(期待する学習態度以上に、うすなが見られる)	3(十分満足できる)	2(やや不十分である)	1(努力を要する)
1	教師の振り返り	4 生徒同士や教師の学習について話し合う場がある。	3 振り返り・振り返り場面が多くなり、生徒自身が振り返りを振り返り場がある。	2 振り返り・振り返り場面の生徒の発言や振り返り場面に配慮してある。	1 振り返りの場面に配慮してある。	
2	学習課題(自ら)の提示	4 生徒に課題や学習課題を提示し、学習意欲を高める工夫がなされている。	3 課題提示の工夫がなされている。	2 課題提示の工夫がなされている。	1 課題提示の工夫がなされている。	
3	教師の発問	4 授業内容を基盤として、問いを投げかけている。	3 学習課題(めあて)をもとに、問いを投げかけている。	2 発問が、生徒の思考を促している。	1 発問が、生徒の思考を促している。	
4	教師の振り返り	4 学習内容の理解の程度や学び合いの状況について、振り返り場を設けている。	3 振り返り場を設けている。	2 振り返り場を設けている。	1 振り返り場を設けている。	
5	要点のまとめ	4 本時の学習内容を振り返り、要点をまとめている。	3 本時の学習内容を振り返り、要点をまとめている。	2 本時の学習内容を振り返り、要点をまとめている。	1 本時の学習内容を振り返り、要点をまとめている。	
6	自らの解決	4 課題を自ら解決している。	3 課題を自ら解決している。	2 課題を自ら解決している。	1 課題を自ら解決している。	

【改善のポイント】

- ア 生徒が主体的・対話的に学ぶための環境整備・学び合い学習を行うための発表ボードや、タイマー、ICレコーダー等の必要な用具の充実とその活用方法の研究
- イ 教員の基本的な教授技術の向上(発問、板書などを中心に)

② 学年団全員で取り組む道徳授業研究

校内で授業研究は、道徳を中心に取り組む。学年団全教員が、模擬授業や指導案検討会を繰り返して授業を作り上げ、保護者にも授業を公開した。教科の壁を乗り越え、若年教員とベテラン教員が協同して授業を構想することで、基礎的な教授技術(発問、板書、生徒の意見の取り上げ方、話し合いの仕方等)の具体的な研修の場になっていた。(9～10月)

③ 先進校の研究発表会に参加

ア ルーブリックやパフォーマンス評価の研究に取り組んでいる京都教育大附属桃山中学校教育研究発表会(11月25日)に参加し研修を深め、成果を全教員で共有し、教科ごとにルーブリックを取り入れた評価の研修を行った。

イ 学びの共同体研究会(1月実施)に参加し、具体的な学び合い学習の方法と校内研修の進め方についての研修を深め、今後の研修体制の改善策の参考にした。

(3) 【Check】 授業改善の実態や成果の把握

① 授業評価ルーブリック、板書ルーブリックを活用した授業評価

授業後の討議を焦点化し効率的に深められるように、判定基準を示したルーブリックを活用して授業を評価する。討議会を持たなくても交換し合い授業評価を行うことができた。

② 生徒自身の自己評価と生徒による教員の授業評価の実施

学期末に生徒と教員が共に授業を振り返る。生徒は、自分の授業への取組を自己評価するとともに、教員の指導方法などについての評価を行う。統計処理をしたデータをもとに、教員自身が授業改善の成果や課題を自己分析した。(図2)

③ 香川県学習状況調査で生徒の実態把握

毎年11月に1・2年生を対象に行われる香川県学習状況調査の学力調査と質問紙調査の結果をもとに、生徒の学力や生活状況、学習状況の実態、変容と授業改善の成果を確認した。

(4) 【Action】 成果や改善点の共有

教科ごとの成果を、レポートにまとめ成果を共有し、今後の授業改善に向けて具体的な方策を検討した。また、香川県学習状況調査の結果分析ツールを利用し、経年比較や県平均との比較から分析し、今後の対応策を考えた。(2月)

3. 成果と課題

教員の意識調査や、県学習状況調査質問紙では、教員の改善への意欲向上と、授業に話し合い活動を導入し課題解決を図るような授業が増加しているという結果が出た。PDCAサイクルでシステム化することで、具体的方法が明確になったことや、教具などの環境を整備することが効果的であった。

しかし県学習状況調査の結果では、少しながらも向上の傾向が見られるが、本校生徒の学力は十分ではない。特に学習意欲、学習習慣形成に課題がある。来年度は、生徒同士の学び合い学習、生徒が主体的に学ぶための環境整備の充実をめざし、授業研究を中心に研究を進めていきたい。

【図2 教師自身の授業改善の振り返り】

生徒による授業評価の結果から、自分の授業改善を図ろう。

自分の授業の長所(よい点、改善点)を自己分析し、改善の方策を考える。

名前 ()

① 肯定的割合を、グラフから計算し、自分の欄に書き入れる。
 ② その数値や、グラフの分布などを見ながら、教師自身が評価してある。
 ③ その数値を自己分析する。
 ④ 次回(来年度)の長所を決定する。

質問項目	肯定的割合 (1=2) 5%		教師の評価 (1=5) 5%	評価
	割合	割合		
① 授業の準備がそろっている。	93.1	-	-	-
② 礼儀なく、やる気を持って授業に取り組んでいる。	82.5	-	-	-
③ 先生や友だちの話をしっかり聞いている。	89.1	-	-	-
④ 黒板に書いたことをノートにきちんとまとめている。	89.0	-	-	-
⑤ 質問は互いにできている。	77.1	-	-	-
⑥ 家で決まった時間、定時学習をしている。	45.3	-	-	-
⑦ 積極的に発言している。	39.3	-	-	-
⑧ 授業中、声たごとの自分の発言をまとめることができる。	41.1	-	-	-
⑨ 1分前準備、あと1分、退席前をきちんとできている。	84.6	-	-	-
⑩ 授業中、予習や復習をきちんとしている。	46.3	-	-	-
⑪ 先生は学習課題をはっきり提示してくれる。	90.4	-	-	-
⑫ 先生はわかりやすい教材やワークシートを準備している。	87.7	-	-	-
⑬ 先生の声の大きさは聞きやすい。	93.9	-	-	-
⑭ 先生の話し方や話す速さは聞きやすい。	89.5	-	-	-
⑮ 先生の授業は理解できる場があり、学習する意欲がわいてくる。	76.2	-	-	-
⑯ 先生の授業では、ペアやグループで考えたり話し合う機会もある。	58.9	-	-	-
⑰ 授業中の指示や説明がはっきりしていて、わかりやすい。	87.4	-	-	-
⑱ 先生の黒板の字や内容は読みやすく、わかりやすい。	88.4	-	-	-
⑲ 先生は朝まじや朝晩などの声かけをしてくれる。	70.3	-	-	-
⑳ 自分の意見や考えを大切にしてくれる。	81.2	-	-	-

* 自分の授業のよい点 * 自分の授業の改善点

理由(番号) 考えられる理由、要因 項目(番号) 具体的な改善方法